

週間情報

No. **0829**

発行: 全国消防長会 企画部 企画課 東京都港区虎ノ門 2-9-16 TEL03-4500-6622 URL: <https://www.fcj.gr.jp/>

目次

※ 目次の項目をクリックすると、該当ページへ移動します。

消防本部の動き

▽訓練

- ◆ 高層ホテルにおけるはしご車着梯訓練を実施
[富士五湖広域行政事務組合富士五湖消防本部（山梨）](#)
- ◆ F F S 訓練を実施
[土浦市消防本部（茨城）](#)
- ◆ 「国際消防救助隊北関東連携訓練」を実施
[茨城西南広域消防本部（茨城）](#)
- ◆ 解体予定のアパートを活用した訓練を実施
[磐田市消防本部（静岡）](#)
- ◆ 「熱海合同海難救助訓練」を実施
[熱海市消防本部（静岡）](#)
- ◆ 「令和8年度緊急消防援助隊宿营地野営訓練」を実施
[砂川地区広域消防組合消防本部（北海道）](#)

▽研修

- ◆ 管理職員研修を実施
[館林地区消防組合消防本部（群馬）](#)
- ◆ 救急隊員のスキルアップ研修会を実施
[高島市消防本部（滋賀）](#)
- ◆ 警防研修会を実施
[鳥取県東部広域行政管理組合消防局（鳥取）](#)

▽その他

- ◆ 消防協力者に感謝状を贈呈
[田原市消防本部（愛知）](#)
- ◆ 江戸川消防少年団50周年記念式典を挙行
[東京消防庁（東京）](#)
- ◆ 住宅用火災警報器の普及啓発に活用する広報媒体の運用を開始
[沖縄市消防本部（沖縄）](#)
- ◆ 栗東トレーニング・センターから熱中症対策資機材を受納
[湖南広域消防局（滋賀）](#)
- ◆ 熱中症予防広報のスライド投影を開始
[豊田市消防本部（愛知）](#)
- ◆ A R ・ V R 災害体験機器（ゴーグル）を導入
[小山市消防本部（栃木）](#)
- ◆ 「おもちゃ花火教室2026」を開催
[大田市消防本部（島根）](#)

▽消防庁通知等

- ◆ 令和 8 年度総合防災訓練大綱について
(消防災第 118 号、令和 8 年 7 月 15 日)
- ◆ 「世界保健機関（WHO）による緊急事態宣言を受けたエボラ出血熱に係る対応について」の一部改正について
(消防救第 258 号、令和 8 年 7 月 16 日)

▽報道発表

- ◆ 消防防災科学技術研究推進制度の令和 8 年度第 1 期緊急枠研究開発課題の採択
(令和 8 年 7 月 17 日、消防庁)

▽情報提供

- ◆ 令和 8 年度予防技術検定の実施について
一般財団法人消防試験研究センター
- ◆ 日本 CBRNE 学会／NBCR 対策推進機構共同主催フォーラムの開催について
(複合災害フォーラム（2026）イン福島浜通り）
主催：一般社団法人日本 CBRNE 学会、特定非営利活動法人 NBCR 対策推進機構
後援：全国消防長会
- ◆ 令和 8 年度予算事業 防災力強化総合交付金（広域連携推進事業）のご案内
内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（地域防災力強化担当）付

「公式 X」を開設!!

～あなたのもとへ直接、素早く情報をお届け～

フォローはこちら



X (旧 Twitter) 登録用二次元コード

消防本部の動き

▽訓 練

◆ 高層ホテルにおけるはしご車着梯訓練を実施

富士五湖広域行政事務組合富士五湖消防本部（山梨）

富士五湖消防本部では、令和8年6月23日（火）、富士急ハイランドリゾート&スパにおいて、高層ホテルにおけるはしご車着梯訓練を実施しました。

この訓練は、高層建物における消防活動技術の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、管内でも有数の高層建物である同施設において、建物や敷地の状況を踏まえ、はしご車の部署位置や客室への進入方法、危険箇所などを確認しました。

また、同施設では同年1月26日（月）に、自衛消防隊による初期消火訓練、119番通報訓練および避難訓練のほか、消防隊と連携した消防用設備等を活用した火災対応訓練を実施しており、継続した訓練を通じて連携強化を図っています。

今後も関係機関との連携を深め、災害時の活動に生かしてまいります。



【訓練の様子】

◆ F F S訓練を実施

土浦市消防本部（茨城）

土浦市消防本部では、令和8年6月30日（火）、7月1日（水）の2日間、隣接するつくば市消防本部にご協力いただき、F F S訓練を実施しました。

この訓練は、火災現場において隊員が危機的状況に陥った際の自己救出および隊員救出の技術向上を図ることを目的として実施したものです。

期間中は、つくば市消防本部職員を講師としてお招きし、閉鎖空間や障害物を想定した脱出要領、緊急時の対応要領、救出技術などについて、実践的な知識や技術を学ぶとともに、安全管理の重要性について理解を深めました。

今後も近隣消防本部との連携を強化し、各種訓練を継続することで、災害対応能力の向上と安全確保に努めてまいります。



【訓練の様子】



【訓練後の記念撮影】

◆ 「国際消防救助隊北関東連携訓練」を実施

茨城西南広域消防本部（茨城）

茨城西南広域消防本部では、令和8年6月30日（火）、7月1日（水）の2日間、坂東消防署および旧坂東消防署庁舎において、「国際消防救助隊北関東連携訓練」を実施しました。

この訓練は、国際緊急援助活動に必要なUSAR技術の習熟および隊間連携の強化を図ることを目的として実施したものです。

期間中は、登録9本部（茨城西南広域、水戸市、宇都宮市、前橋市、高崎市等広域、さいたま市、横浜市、相模原市、長野市）が参加し、解体予定の建物を活用したASR2活動、ロープレスキュー、ブリーチング、ショアリングなどの訓練を実施しました。

また、ワークサイトトリアーゴフォームの作成や3庁統一手技を用いた救助活動、隊間連携などを通じて、国際消防救助隊として求められる総合的な能力の向上を目指した訓練を行いました。

さらに、後方支援としてエアータント設営や拠点車展開、レスキューキッチンの運用などを実施し、B・O運営能力の強化を図るとともに、参加本部間の連携強化や国際緊急援助活動に必要な知識・技術の向上につながる有意義な訓練となりました。



【訓練の様子】



【訓練後の記念撮影】

◆ 解体予定のアパートを活用した訓練を実施

磐田市消防本部（静岡）

磐田市消防本部では、令和8年6月30日（火）、7月1日（水）の2日間、大東建託株式会社にご協力いただき、同社が管理する解体予定のアパートを活用した訓練を実施しました。

この訓練は、実際の建物を活用した実践的な訓練を通じて、現場指揮者の状況判断能力や隊員の対応力の向上および部隊間の連携強化を図ることを目的として実施したものです。

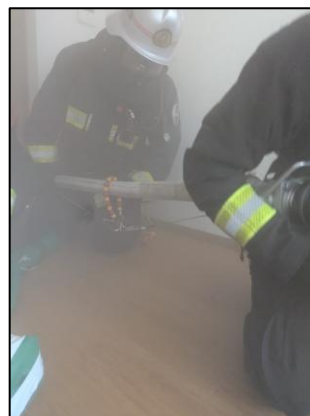
期間中は、建物内への進入時における隊員の安全確保（「検索補助具」取り扱いの習熟）や、効果的な消火戦術について確認しました。

また、多様化・複雑化する災害への対応が求められるなか、通常の訓練施設では実施が困難な実際の建物を活用した訓練を行うことで、より実践的な経験を得る貴重な機会となりました。

今後も公民連携を推進し、災害対応力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】



【検索補助具】

（オートロール、ムーリングカラー）

◆ 「熱海合同海難救助訓練」を実施

熱海市消防本部（静岡）

熱海市消防本部では、令和8年7月6日（月）、熱海港湾内において、伊豆小型船安全協会熱海支部、熱海警察署、下田海上保安部、富士急マリリゾート、青木建設などの関係機関と「熱海合同海難救助訓練」を実施しました。

この訓練は、本格的なマリレジャーシーズンを迎えるにあたり、「マリレジャー中に4人が海中に転落した」との想定で、人命救助を最優先に、救助技術の向上および関係機関との連携強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、現場指揮本部を設置し、情報収集を行うとともに、要救助者情報を関係機関と共有し、活動方針を決定しました。

活動では、関係機関保有の船舶により要救助者を救助したほか、屈折はしご付消防ポンプ自動車を活用し、要救助者を海面から救出するなど、救助活動の手順を確認しました。

今後も、こうした合同訓練を通じて、マリレジャー事故の未然防止と関係機関との連携体制の強化に努めてまいります。



【船舶による救助活動の様子】



【屈折はしご付消防ポンプ自動車による救助活動の様子】

◆ 「令和8年度緊急消防援助隊宿营地野営訓練」を実施

砂川地区広域消防組合消防本部（北海道）

砂川地区広域消防組合消防本部では、令和8年7月8日（水）、9日（木）の2日間、広域応援受援時に指定している宿营地（旧豊沼小学校）において、「令和8年度緊急消防援助隊宿营地野営訓練」を実施しました。

この訓練は、緊急消防援助隊の応援時における速やかな出動体制の構築および派遣活動に必要な能力の向上を図るとともに、受援時の指定宿营地としての適正調査を目的として実施したものです。

期間中は、当消防本部の応援計画に基づき、指定派遣職員（消火小隊4人）の参集、派遣時に使用する資機材の準備および宿营地の設営を行いました。

また、市教育委員会にご協力いただき、体育館内にエアーテントを設置し、収容可能人員の算定、ライフラインの状況や出動車両の動線計画などを確認しました。



【訓練の様子（宿营地）】

[目次に戻る](#)

▽研 修

◆ 管理職員研修を実施

館林地区消防組合消防本部（群馬）

館林地区消防組合消防本部では、令和8年6月25日（木）から7月7日（火）までの期間中、管理職員研修を実施しました。

この研修は、全国消防長会による消防現勢調査を基に、当消防本部の現状を組織体制（服務に関する状況など）や財政面などの観点から整理し、その現状と課題を管理職員へ改めて周知することを目的として実施したものです。

期間中は、座学を中心に、消防現勢調査に基づく各種データの共有や組織が抱える課題の整理、今後の方向性について確認を行いました。

参加した職員からは、「知らなかったことが多く、有意義な研修だった」といった声が寄せられました。

今後も、地域住民の安全・安心を守るため、管理職員が自身の役割と責任を再確認し、適切な組織マネジメントを推進してまいります。



【研修の様子】

◆ 救急隊員のスキルアップ研修会を実施

高島市消防本部（滋賀）

高島市消防本部では、令和8年7月8日（水）、9日（木）の2日間、「妊産婦・新生児の救急対応」をテーマに、救急隊員を対象としたスキルアップ研修会を実施しました。

この研修会は、妊産婦および新生児に対する救急対応に必要な知識・技術を習得し、救急隊員の対応力向上を図ることを目的として実施したものです。

期間中は、高島市民病院の助産師である栗津裕美子氏と越野さおり氏を講師としてお招きし、出産直後の産婦および新生児への対応方法、新生児の心肺蘇生法や保温方法などについて、講義と実技を通じて学びました。

今後も、病院などの関係機関と連携しながら継続的な教育・訓練を実施し、あらゆる救急事案に迅速かつ適切に対応できる救急隊員の育成に努めてまいります。



【研修会の様子】

◆ 警防研修会を実施

鳥取県東部広域行政管理組合消防局（鳥取）

鳥取県東部広域行政管理組合消防局では、令和8年7月15日（水）、鳥取県内の生コンクリート組合などと締結した「災害時における消防用水等の確保に関する協定」に基づき、郡家コンクリート工業株式会社の職員を講師としてお招きし、警防研修会を実施しました。

この研修会は、水利の確保が困難な場所における林野火災などに備え、コンクリートミキサー車への給水および排水の手順を確認するとともに、関係機関との連携強化を図ることを目的として実施したものです。

今後は、今回の研修会を踏まえ、消防隊と連携した実践的な訓練を実施することにより、組織全体としての大規模災害対応力の向上に努めてまいります。



【研修会の様子】

▽その他

◆ 消防協力者に感謝状を贈呈

田原市消防本部（愛知）

田原市消防本部では、令和8年7月1日（水）、消防協力者に対し、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年5月6日（水）、市内で発生した建物火災において、火災を発見した消防協力者が、自宅の消火器2本を持ち出して初期消火を実施したものです。

この迅速かつ適切な初期消火は、建物への延焼拡大を阻止し、被害の軽減に大きく貢献しました。

消防協力者の的確な判断と勇気ある行動は、負傷者を出さず人命・財産を守る結果につながりました。



【贈呈後の記念撮影】

◆ 江戸川消防少年団50周年記念式典を挙

東京消防庁（東京）

東京消防庁江戸川消防署では、令和8年6月28日（日）、タワーホール船堀において、江戸川消防少年団50周年記念式典を挙

同少年団は、昭和51年7月17日に東京23区内で初の消防少年団として発団し、現在は伊藤智章団長のもと、指導者29人、団員44人で活動しています。

当日は、第1部で指導者などに対する表彰を行った後、消防少年団員が日頃の活動を披露しました。

第2部では、タレントの小西博之氏による記念講話や、当庁音楽隊・カラーガーズ隊による記念演奏を行い、会場は大いに盛り上がり

今後も、防火・防災意識の向上を図るとともに、未来を担う防災リーダーの育成に努め、地域とともに100周年へ向けた新たな歴史を築いてまいります。



【活動披露の様子】



【式典後の記念撮影】

◆ 住宅用火災警報器の普及啓発に活用する広報媒体の運用を開始

沖縄市消防本部（沖縄）

沖縄市消防本部では、令和8年7月1日（水）から、住宅用火災警報器（以下「住警器」という。）の普及啓発を推進するため広報媒体の運用を開始しました。

この広報媒体は、市内の防災関連会社であるアクア防災工業株式会社および有限会社近代防災工業から寄贈いただいたものです。

寄贈品の内訳は、ポスター300枚、リーフレット3,000枚、ポケットティッシュ1,000個およびPR動画で、ポスターやリーフレット、PR動画の製作には、当消防本部も全面的に協力しました。

特にPR動画は、沖縄の方言（字幕付き）を多用し、スローテンポで進行するなど、高齢者にも分かりやすい内容としています。

今後も、寄贈いただいた広報媒体を最大限に活用し、住警器の普及啓発に努めてまいります。



【寄贈後の記念撮影】



【PR動画の二次元コード】

◆ 栗東トレーニング・センターから熱中症対策資機材を受納

湖南広域消防局（滋賀）

湖南広域消防局では、令和8年7月2日（木）、日本中央競馬会栗東トレーニング・センターから、災害活動時の熱中症対策として、隊員の休息および冷却に活用するため、ミストファンおよびマルチハウスを寄贈いただきました。

同センターからは、昭和48年から地元協力事業（地元貢献活動）の一環として、継続的に物品によるご支援をいただいております。

今回寄贈いただいた資機材を有効に活用し、近年の気温上昇に伴う熱中症対策を徹底することで、地域住民の安全・安心の確保につなげてまいります。



【寄贈の様子】



【寄贈後の記念撮影】

◆ 熱中症予防広報のスライド投影を開始

豊田市消防本部（愛知）

豊田市消防本部では、令和8年7月7日（火）から、本格的に暑くなる夏場を前に、プロジェクターを使用し、消防庁舎の外壁へ熱中症予防広報のスライド投影を開始しました。

これは、熱中症予防を広く呼び掛け、発症の未然防止を図ることを目的として開始したものです。

庁舎周辺には物流倉庫が多く立地していることから、スライド投影を通じて、信号待ちをするトラックドライバーをはじめ、付近を通行する人や散歩中の地域住民に対し、水分補給や適度な休憩、涼しい環境の確保などの熱中症予防対策、熱中症の症状について広報・啓発を行っています。

今後も、熱中症予防に関する広報を通じて、市民の予防意識の向上を図り、発症の予防および重症化の防止に努めてまいります。



【熱中症予防広報のスライド投影の様子】

◆ AR・VR災害体験機器（ゴーグル）を導入

小山市消防本部（栃木）

小山市消防本部では、令和8年7月11日（土）、災害を疑似体験できるAR（拡張現実）・VR（仮想現実）技術を活用した体験機器（ゴーグル）8台を導入しました。

これは、市民の防災意識と災害対応能力の向上を図ることを目的として導入し、運用を開始したものです。

ゴーグルを着着することで、火災、地震、浸水などの実際の災害に近い状況を安全に疑似体験でき、災害時の危険性や適切な行動について学び、防災への関心を高めることが期待されます。

本機器は、自主防災会が行う防災訓練をはじめ、市内の学校や事業所などが実施する自衛消防訓練、職場体験学習、防火・防災イベント、防災関連の出前講座などで幅広く活用してまいります。



小山市 OYAMA CITY

災害を、体験する。

AR・VR災害体験

ゴーグルを着着することで、火災・浸水・地震をリアルに体験することができます。

見て、感じて、学ぶ。
リアルな体験が防災意識を高めます。

体験できる内容

- AR火災体験**
実風景に火・煙を重ねて表示し、消火・避難体験をすることができます。
- AR浸水体験**
実風景に浸水・降雨を重ねて表示し、浸水体験をすることができます。
- VR地震体験**
仮想空間で震度6強の地震を体験することができます。

自主防災会が実施する防災訓練をはじめ、市内学校や事業所等が実施する自衛消防訓練、職場体験学習、防火・防災イベントや各種団体等が開催する防災関連の出前講座など、幅広く活用できます。体験をご希望の場合は、小山市消防本部地域消防課または行事に関連する部署へご相談下さい。

※体験は無料です

お問い合わせ・体験のご依頼
小山市消防本部 地域消防課 地域係
TEL: 0285-39-6614 FAX: 0285-31-0182
Email: d-tiikisyoubou@city.oyama.tochigi.jp

詳しくは
小山市ホームページをご覧ください。

【AR・VR災害体験機器（ゴーグル）】

◆ 「おもちゃ花火教室2026」を開催

大田市消防本部（島根）

大田市消防本部では、令和8年7月13日（月）、管内の保育園において、「おもちゃ花火教室2026～一緒に学ぼう！夏のおやくそく 正しいおもちゃ花火の遊び方～」を開催しました。

この教室は、幼少期から火の正しい使い方を学び、住宅防火につなげることを目的として実施したもので、当消防本部で初めての取り組みとなります。

当日は、園児たちの大歓声の中、当市のマスコットキャラクター「らとちゃん」や、大田市を火災から守る正義のヒーロー！？が登場し、おもちゃ花火の正しい遊び方について学んだ後、屋外で園児たちがおもちゃ花火を体験しました。

消防職員として、「火の消し方」だけでなく「火のつけ方」を教えることも、防火への第一歩です。

今後もイベントなどを通じて地域との交流を深めながら、住宅防火を呼び掛け、火災の減少を目指してまいります。



【花火教室の様子】



【終了後の記念撮影】

[目次に戻る](#)

国等の動き

▽消防庁通知等

◆ 令和8年度総合防災訓練大綱について

(消防災第118号、令和8年7月15日)

消防庁国民保護・防災部防災課長から各都道府県消防防災主管部長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

平素より防災行政の推進に御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

先般、別添のとおり、中央防災会議において「令和8年度総合防災訓練大綱」（以下「大綱」という。）が決定されました。

政府においては、今後、大綱に基づき、政府主催の総合防災訓練等を実施してまいりますので、各都道府県においても、地域防災力の強化等を図るため、各訓練への積極的な御参加と御協力をお願いします。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/5527d1867a72015d0d010eeaac9b852dce67a2c8.pdf>) に掲載されています。

【担当】

消防庁国民保護・防災部防災課
森谷補佐、田崎係長、塩田事務官
電話：03-5253-7525 FAX：03-5253-7535

消防庁国民保護・防災部防災課国民保護運用室
関本補佐、木内係長
電話：03-5253-7551 FAX：03-5253-7535

◆ 「世界保健機関（WHO）による緊急事態宣言を受けたエボラ出血熱に係る対応について」の一部改正について

(消防救第258号、令和8年7月16日)

消防庁救急企画室長から各都道府県消防防災主管部(局)長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

平素より、救急業務の推進につきまして御理解と御協力をいただき御礼申し上げます。

コンゴ民主共和国とウガンダにおけるエボラ出血熱に係る対応については、「世界保健機関（WHO）による緊急事態宣言を受けたエボラ出血熱に係る対応について」（令和8年5月21日付け消防救第162号（令和8年6月5日一部改正）。以下「消防庁通知」という。）により、御対応と御協力をいただいているところです。

今般、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の宣言を受けたエボラ出血熱に係る対応について」の一部改正について」（令和8年7月15日付け健康・生活衛生局感染症対策部企画・検疫課、検疫所管理室長事務連絡）が発出されたことを踏まえ、消防庁通知を改正することといたしました。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/260716_kyuuki.pdf) に掲載されています。

【お問合せ先】

消防庁救急企画室 金子、森、森原
電話：03-5253-7529
E-mail：kyukyuanzen@soumu.go.jp

[目次に戻る](#)

▽報道発表

◆ 消防防災科学技術研究推進制度の令和８年度第１期緊急枠研究開発課題の採択 (令和８年７月１７日、消防庁)

消防庁では、消防防災分野における課題解決や重要施策推進に資するため、消防防災科学技術研究推進制度（競争的研究費）により研究開発を推進しています。

近年発生した災害等を踏まえ、消防活動現場で活用できる技術の研究開発を第１期緊急枠として公募し、採択しましたので公表します。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

（<https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/c8afd8e8fcf9ef9ff9015d278855a23b7f155d85.pdf>）に掲載されています。

< 担当 >

消防庁総務課技術戦略室

中嶋 ・ 関 ・ 鈴木 ・ 市川

Tel : 03-5253-7541

Mail : gisei2_atmark_ml.soumu.go.jp

※スパムメール対策のため、「@」を

「_atmark_」と表示しております。

送信の際には、「@」に変更してください。

▽情報提供

◆ 令和8年度予防技術検定の実施について

一般財団法人消防試験研究センター

令和8年度の予防技術検定を、次のとおり実施します。
本検定の受検申請方法は、電子申請のみです。また、受検案内についてもホームページへの掲載のみとなりますので、詳細は当センターのホームページをご確認ください。

- 1 検定実施年月日
令和8年12月6日（日）午後2時00分から午後4時30分
- 2 受検申請期間
令和8年7月8日（水）から8月31日（月）まで
- 3 検定区分
防火査察・消防用設備等・危険物
- 4 受検申請方法
当センターホームページから電子申請 (<https://www.shoubo-shiken.or.jp>)
- 5 受検案内
当センターホームページに掲載
- 6 合格発表日
令和9年1月8日（金）（予定）
- 7 その他

団体申請には、消防本部ごとの「団体コード」が必要です。申請の際、代表者の方は次の連絡先までお問合せください。



【予防技術検定ホームページの二次元コード】

【問い合わせ先】

一般財団法人 消防試験研究センター
予防技術検定担当

TEL 03-3597-0220（代表）
（9:00～17:00（土日祝を除く））

◆ 日本CBRNE学会／NBCR対策推進機構共同主催フォーラムの開催について（複合災害フォーラム（2026）イン福島浜通り）

主催：一般社団法人日本CBRNE学会、特定非営利活動法人NBCR対策推進機構
後援：全国消防長会

【フォーラムテーマ】

福島原発事故からの復興（観光資源を目指して）

【目的】

東日本大震災から15年が経過し、福島第一原子力発電所事故という世界でも類を見ない複合災害の経験と教訓は、今後の防災・危機管理体制の構築や復興において極めて重要な意義を持っています。

本フォーラムでは、研究者、消防職員、自衛隊等専門家の皆さまおよび福島県浜通り地区とともに、複合災害への対応力の強化および復興について議論を深めてまいります。福島浜通りの地で、過去の経験から学び、未来の災害対応力向上、復興につなげる観光資源の紹介など有意義な議論が展開されます。

1 実施日時

令和8年8月23日（日）10時00分から16時00分まで

2 会場

FUTATABI FUTABA FUKUSHIMA（福島県双葉町）

※対面およびオンデマンド配信

3 主催

特定非営利活動法人NBCR対策推進機構、一般社団法人日本CBRNE学会共同主催

4 対象者

消防職員、防災専門家、医療従事者、自衛隊員、警察、大学関係者などの専門家に加えて、広く興味ある地元企業、地元一般市民を対象とする。

5 申し込み方法

フォーラムに参加を希望される方はリンク先に必要事項をご記入いただき登録してください。またはお問い合わせ先にご連絡ください。

6 参加費

会員・非会員共2,200円（現地参加）

会員・非会員共2,200円（オンデマンド参加）

7 プログラム（発表構成）

(1) 開会の挨拶

13時15分から13時20分まで

石井 正三（日本CBRNE学会理事長）

(2) 基調講演

13時20分から13時40分まで

佐藤 正久（NBCR対策推進機構会長、日本CBRNE学会顧問、前参議院議員）

(3) 特別発言

ア 特別発言1：「核・放射線事故の実態」 13時40分から13時55分まで

岩熊 真司（元陸自化学学校副校長）

イ 特別発言2：「元東電マン・生き証人」 13時55分から14時10分まで

石崎 芳行（東日本国際大学客員教授、元東京電力副社長）

ウ 特別発言3：「学校法人昌平黉の取組」 14時10分から14時25分まで

中村 隆行（いわき短期大学学長、日本CBRNE学会理事）

エ 特別発言4：「福島イノベーションコースト構想」 14:25から14:40まで

伊藤 泰夫（福島イノベーションコースト構想推進機構 理事長補佐）

8 パネルディスカッション

(1) パネルディスカッション1（会場準備：14時40分から14時50分まで）

ア 14時50分から15時40分まで

イ 座長

[目次に戻る](#)

- 石井 正三（日本C B R N E 学会理事長）
- ウ パネラー
特別発言者1～4、その他日本C B R N E 学会役員など
- (2) パネルディスカッション2（会場準備：15時40分から15時50分まで）
- ア 15時50分から16時40分まで
- イ 座長
山根 辰洋（双葉町町会議員、一般社団法人双葉郡地域観光研究協会 代表理事）
- ウ パネラー
小野 一浩 （伝承館副館長）「東日本大震災・原子力災害伝承館」
山本 暁甫 （NPO法人インビジブル）
「浜通りを盛り上げるインビジブルプロジェクト」
近藤 学 （陶吉郎窯）
「福島浜通り復興資源としての大堀相馬焼」
阿部 翔太郎 （R e F u i t s）
「浜通り特産農産物（果物）の育成」

複合災害フォーラムイン福島浜通りに参加希望の方は

Peatix（<https://nbcrcbrne082302.peatix.com/view>）からお申し込みをお願い致します。

Peatix のお申し込みの不具合が生じる方は、下記宛、メールにて「参加希望」の旨お知らせください。
お申込み詳細をお知らせいたします。御入金完了をもって正式申込となります。

【問い合わせ先】

事務局：N B C R 対策推進機構 東京都港区赤坂 4-9-25 新東洋赤坂ビル 3 階

担当：岡部、遠藤、木村、石原、TEL：03-5829-6187、FAX：03-5829-6197

HP：<https://nbc-r-taisaku.com> E-mail：info@nbc-r-taisaku.com

◆ 令和8年度予算事業 防災力強化総合交付金（広域連携推進事業）のご案内

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（地域防災力強化担当）付

防災庁設置を見据え、従来の防災・減災に係る取組の改善、防災対策の実効性の向上及び地域のニーズを踏まえた「モレ・ムラ」のない被災地・被災者支援の事前準備の高度化・加速化を図るため、地域における危機管理投資を国として後押しするために、新たに「防災力強化総合交付金」を創設しました。

このうち、「広域連携推進事業」について、消防分野での活用も想定しており、現在、令和8年度事業の第2次募集を行っておりますので、是非活用をご検討下さい。

防災力強化総合交付金 制度概要				内閣府政策統括官（防災担当）	
目 的	従来の防災・減災に係る取組の改善、防災対策の実効性の向上及び地域のニーズを踏まえた「モレ・ムラ」のない被災地・被災者支援の事前準備の高度化・加速化を図るため、地域における危機管理投資を国として後押しする。				
令和8年度 予 算 額	35億円	補 助 率	1/2	交 付 対 象 事 業 者	地方公共団体
基 幹 事 業		事 業 概 要		交付上限額（国費）	
（1）防災力強化支援事業		地域レベルでの具体的なシミュレーションによる定量的脆弱分析に基づく災害リスク評価の実施など、従来の防災・減災に係る取組の改善や実効性の向上に資する地方自治体の先進的な防災力強化の取組を支援する。 		上限なし	
（2）広域連携推進事業		各地方自治体が、発災時に他の地方自治体等を支援するために、必要な資機材や人材等を派遣する体制を整備することを支援する。広域的な展開が可能な災害対応車両等の資機材や、広域的な運用の推進に向けた方策検討・体制整備などの取組を支援する。 		都 道 府 県：6,000万円 政令指定都市：4,000万円 その他市区町村：3,000万円 ※都道府県が管内市区町村と連携して事業実施する際は、交付上限額を1割2,000万円まで増額可。	
（3）被災者支援体制整備加速化事業		避難生活環境の抜本的な改善を図るため、各地方自治体の被災者支援体制の実効性を高める取組を支援する。		500万円	
①避難所の環境整備促進訓練等事業		①スフィア基準等に沿った避難所の質向上に配慮し、D-TRACEの活用等も含めた避難所開所・運営訓練等の取組を支援		100万円	
②災害対応関係分野別訓練・研修・協議会合事業		②事前防災に向けた協議会合の開催を支援			

1 広域連携推進事業の概要

発災時に他の地方自治体等を支援するために必要な資機材や、広域的な展開が可能な災害対応車両、資機材の広域的な運用に向けた複数自治体による合同訓練の実施や、広域的な防災・減災のための資機材の備蓄に必要な倉庫を含む広域防災拠点の検討などを支援するものです。

防災力強化総合交付金（広域連携推進事業） 制度概要		（2）広域連携推進事業
		※令和8年度予算事業
概要	被災地のニーズを踏まえた「モレ・ムラ」のない被災地・被災者支援のための事前準備の高度化・加速化に向けて、地方自治体間の広域的な応援・受援体制を強化するために実施する。広域的な展開が可能な災害対応車両をはじめとする資機材の整備や、当該資機材の広域的な運用の推進に向けた方策検討・体制整備などの取組を支援 【主な資機材の例】 ○快適なトイレ環境…トイレカー、トイレトレーラー 等 ○温かい食事や多様なメニュー…キッチンカー、キッチンコンテナ 等 ○プライバシー確保、ベッド…キャンピングカー、トレーラーハウス 等 ○入浴環境…シャワーカー、水循環型シャワー、仮設入浴設備 等 ○その他の生活環境改善…ランドリーカー、医療コンテナ 等 ※受援体制の整備に向け、他地域からの応援職員等が活用する上記資機材の整備も対象 ※このほか、「令和6年能登半島地震を踏まえた有効な新技術～自治体等活用促進カタログ～」で取り上げたような、災害対応上効果が認められ、住民の避難生活環境の向上に資する新技術の活用も対象 【主な方策検討・体制整備の例】 ○資機材の広域的な運用に向けた複数自治体による合同訓練の実施 ○広域的な防災・減災のための資機材の備蓄に必要な倉庫を含む、広域防災拠点の検討 等	  
予算額	35億円の内数（国費）	
年度あたり 交付 上限	補助率：1/2 交付上限（国費）：都道府県 6,000万円 指定都市 4,000万円 市区町村 3,000万円 ※指定都市を除く市区町村は、複数自治体での「連携共同事業」の実施を交付要件とする。 ※複数自治体での「連携共同事業」を実施する場合、交付上限は幹事団体の団体区分で決定する。 ただし、都道府県を幹事団体として複数自治体での「連携共同事業」を実施する場合、連携市区町村1団体につき1,500万円（政令都市は2,000万円）を交付上限に上乗せする。（最大12,000万円まで）	

[目次に戻る](#)

2 交付対象事業者

都道府県、市区町村、一部事務組合、広域連合

※政令指定都市を除く市区町村については複数自治体での「連携共同事業」の実施が交付要件（消防については、相互応援協定等に基づく広域連携により、要件を満たしうるところです。）

※連携共同事業の詳細な要件は各都道府県を通じてご案内している「防災力強化総合交付金（広域連携推進事業）の取扱いについて」（令和8年6月12日付け）をご参照ください。

3 交付上限額

（1）都道府県 6,000万円

※都道府県を幹事団体として管内市区町村と連携して複数自治体での「連携共同事業」を実施する場合、連携市区町村1団体につき1,500万円（政令指定都市は2,000万円）を交付上限に上乗せする。（最大1億2,000万円まで）

（2）政令指定都市 4,000万円

（3）その他の市区町村 3,000万円

（4）一部事務組合・広域連合 3,000万円もしくは4,000万円

※構成する団体が政令指定都市のみの場合は4,000万円、それ以外は3,000万円

4 補助率

1/2

5 申請期間（第2次募集）

（1）事前相談 令和8年7月16日（木）～令和8年7月31日（金）

（2）本申請 令和8年8月上旬頃

6 消防分野での主な活用例（第1次募集において交付決定した実績のあるものを含む）



スライドダンプ



救急車



人員輸送車



可搬ポンプ



ドローン
(運用体制構築費も対象。)



エンジンカッター
(電動式を含む。)

【問合せ先】

内閣府 政策統括官（防災担当）付

参事官（地域防災力強化担当）付交付金担当

Tel : 03-5797-7661

Mail : kofukin-bousaiseibi@cao.go.jp

消防本部の“今”を「週間情報」へ

～身近な出来事、旬な情報を週間情報で発信しませんか？～

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

・原則毎週刊行しており、速報性のある広報となっています。

【留意事項】

・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練などを中心に掲載しています。

・文章は、200～400文字程度、写真は、1～2枚。

・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

【問合せ】：「週間情報」担当・企画課 中西 TEL:03-4500-6622

原稿データは、【専用投稿フォーム】 <https://forms.office.com/r/GxWJXpdc03>
に投稿願います。



機関誌「ほのお」掲載記事募集中

全国の仲間に共有したい取り組みとその情熱を「ほのお」へお寄せください

全国消防協会では、機関誌「ほのお」への掲載記事を募集しています。

・トップ・セカンド記事 完成原稿は不要 掲載希望内容の概要（企画案）を提出

・消防ワイド 写真中心の自由投稿 文章:Word100字程度／写真:JPEG1枚

【問合せ】：企画課・吉田 TEL 03-4500-6622

トップ・セカンド記事:kikakeikaku@fcj.jp 消防ワイド:honoo@ffaj-shobo.or.jp

※添付 5MB 超は分割送信



消防デジタルイラスト募集中!!!

～あなたのイラストが全国の消防業務を支える力となります～

- あなたのイラストが、全国の消防本部で、広報・啓発・訓練・教材作成など、消防業務の様々な場面で活用されます。
- 全国消防長会ホームページの「令和版 消防デジタルイラスト集」に掲載されます。
- ホームページ掲載時には、「〇〇消防本部〇〇作」と作者名を明記し、あなたの名前と作品が、全国に紹介されます。

詳細は、全国消防長会ホームページを検索!!!



全国消防長会・一般財団法人全国消防協会「公式 X」を開設!

～あなたのもとへ直接、素早く情報をお届け～

- 全国消防長会・一般財団法人全国消防協会「公式 X」を開設しました。フォローをお願いします。
令和8年度から定期刊行物（会報・ほのお・週間情報 ※週間情報は既に公開中）をホームページ上で公開することに伴い、「X」を通じて掲載情報などを素早くお届けします。
フォロー（アカウント登録）していただくことにより、各消防本部の先進的な取り組みや本会の取り組みなど多くの情報をお届けいたします。



フォローはこちら



X(旧 Twitter) 登録用二次元コード

